

情報発信 3

～可視化した観測値（Dashboard）の統
合・公開～

A-PLAT

気候変動適応情報プラットフォーム

CLIMATE CHANGE
ADAPTATION
INFORMATION
PLATFORM



目次

第 1 章 はじめに.....	1
目的	2
ArcGIS onlineのExperience Builderとは	2
概要	3
作業フロー.....	3
第 2 章 統合アプリの作成	4
統合アプリの作成	5
ステップ1 : ArcGIS Experience Builderの新規作成	6
ステップ2 : ウィジェットの挿入	7



第 1 章 はじめに

目的

当資料は、地方自治体及び地域気候変動適応センターの方が、Webアプリ（ここではArcGIS onlineのExperience Builder）を活用し、地域における気候変動適応に資する情報の発信を行う際の一助となる事を目的として、アプリケーション操作手順書を作成しました。

ArcGIS onlineのExperience Builderとは

ArcGIS Experience Builder とは、モバイル・タブレットのデザイン設計が可能な Webアプリです。ArcGIS Experience Builder には一画面だけではなくスクロールページのテンプレートも備えられており、Webページのような設計を行うことができます。また、2D マップと 3D マップを1つの画面に表示することができ、位置を連動させることができます。

このWebアプリを活用する事で、「観測データの視覚化」等作成したArcGIS onlineアプリを統合し、効果的に情報発信することができるようになります。

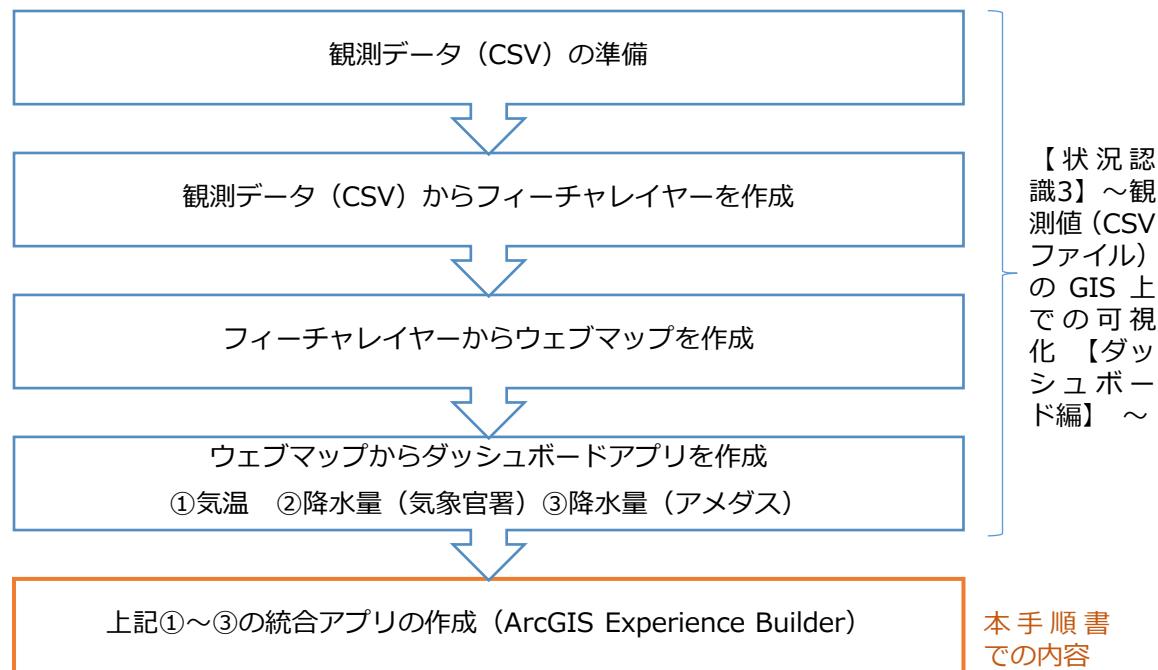
概要

当資料では「【状況認識3】～観測値（CSVファイル）のGIS上での可視化【ダッシュボード編】～」の手順書で作成した3つのダッシュボードをArcGIS Experience Builderで1つのアプリに統合する作業を行います。統合することで複数のアプリを一つのアプリ内で切り替えて表示することができます。

作業フロー

本手順書は、以下作業フローのうち「上記①～③の統合アプリの作成（ArcGIS Experience Builder）」の内容を示しております。

データ準備、フィーチャレイヤーの作成方法、ウェブマップの作成方法、ダッシュボードの作成についてはArcGIS Dashboardアプリを利用した「【状況認識3】～観測値（CSVデータ）のGIS上での可視化【ダッシュボード編】～」手順書をご覧ください。

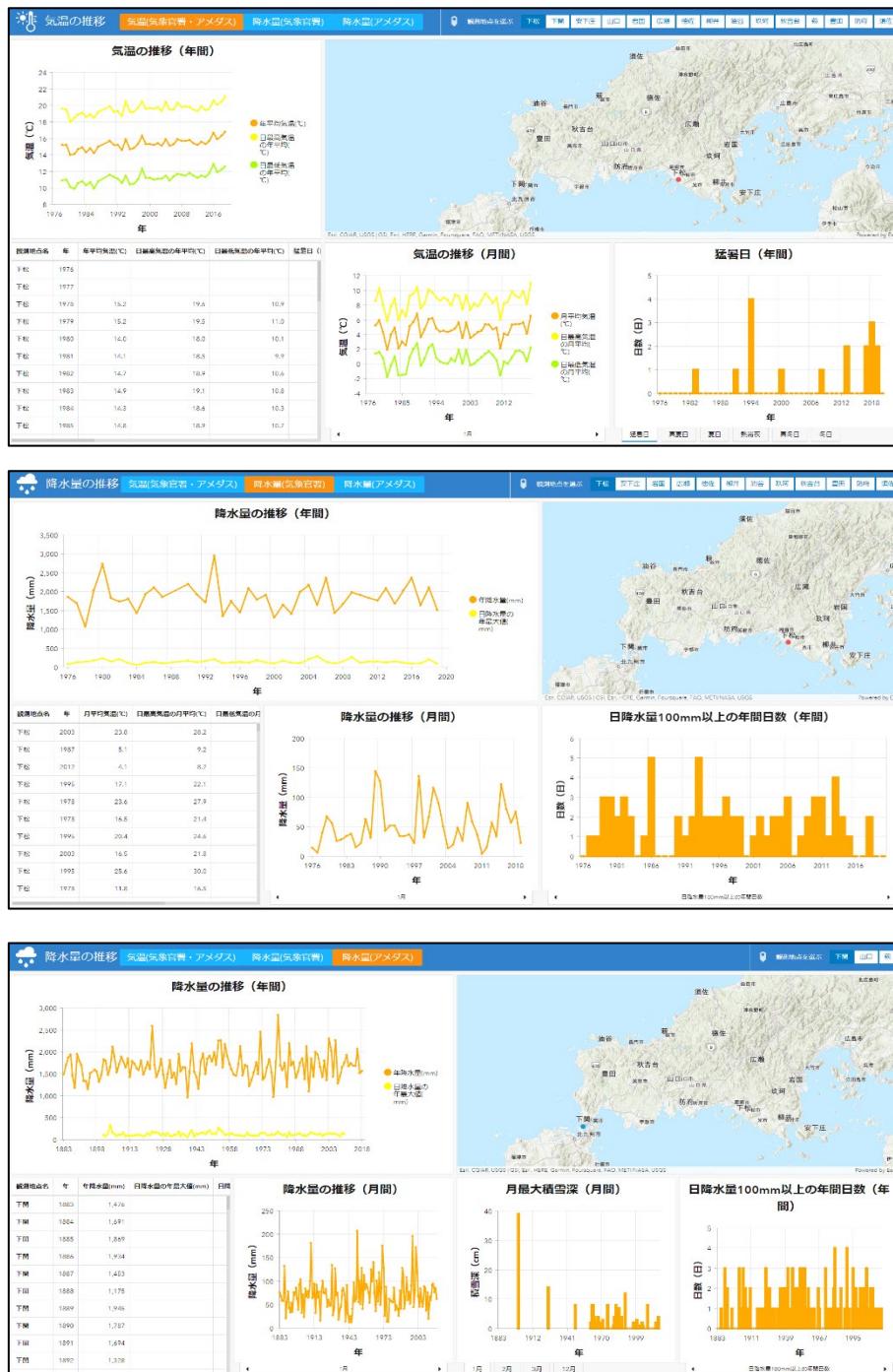




第 2 章 統合アプリの作成

統合アプリの作成

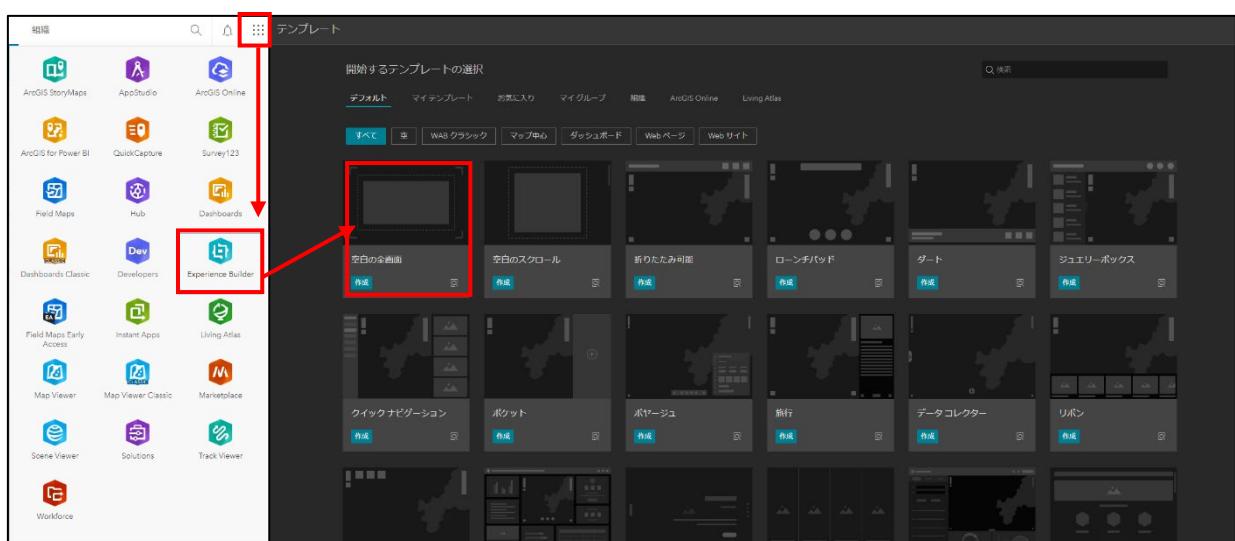
ここではこれまでに作成した3つダッシュボードをArcGIS Experience Builderで1つのアプリに統合する作業を行います。



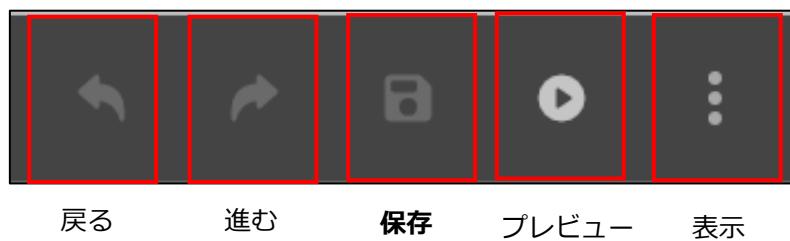
完成イメージ

ステップ1：ArcGIS Experience Builderの新規作成

- ① これまでにArcGIS Dashboards で作成した「気温の推移アプリ（気象官署・アメダス）」、「降水量の推移アプリ（気象官署）」、「降水量の推移アプリ（アメダス）」をArcGIS Experience Builder（以下、Experience Builder）を用いて1つのアプリに統合します。
- ② ホーム画面のアプリランチャー（右上の丸が9つ並んだボタン）からExperience Builderを選択し起動すると、テンプレートの選択画面が表示されます。今回は空白の全画面を使用します。

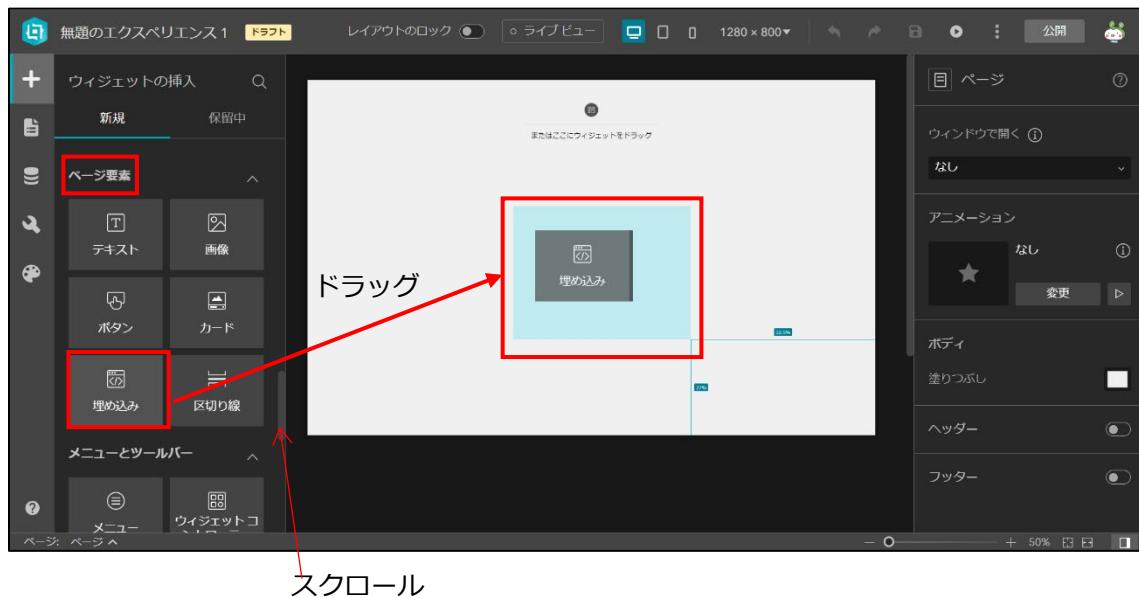


- ③ 画面上部にある【保存ボタン】をクリックすると、アプリが保存されます。こまめに保存するようにしましょう。

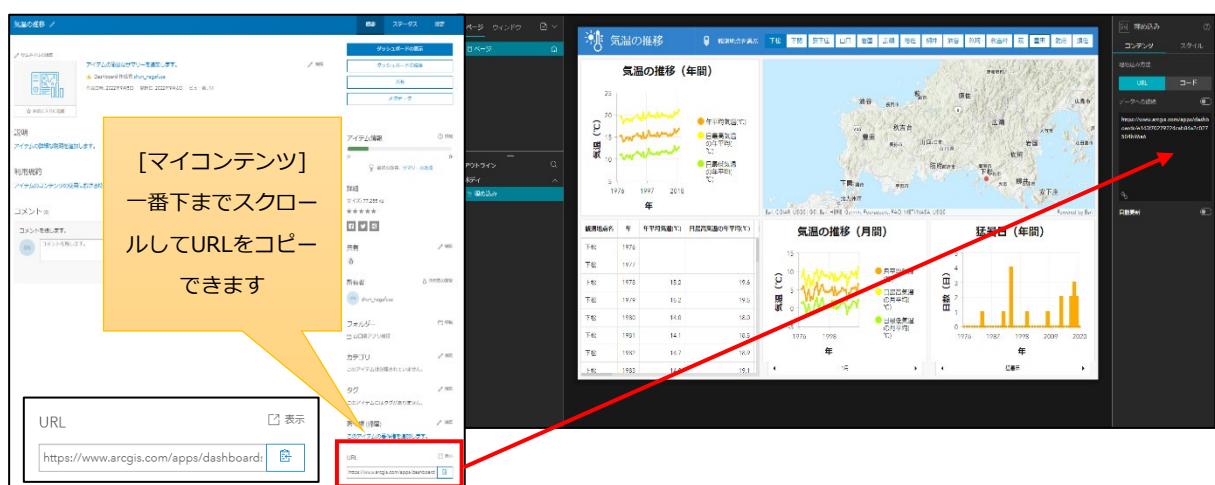


ステップ2 : ウィジェットの挿入

- ① 次にウィジェットの挿入（左上の+マーク）を行います。 [ウィジェットの挿入] > 下にスクロールして [ページ要素] > [埋め込み] をアプリ編集画面にドラッグします。



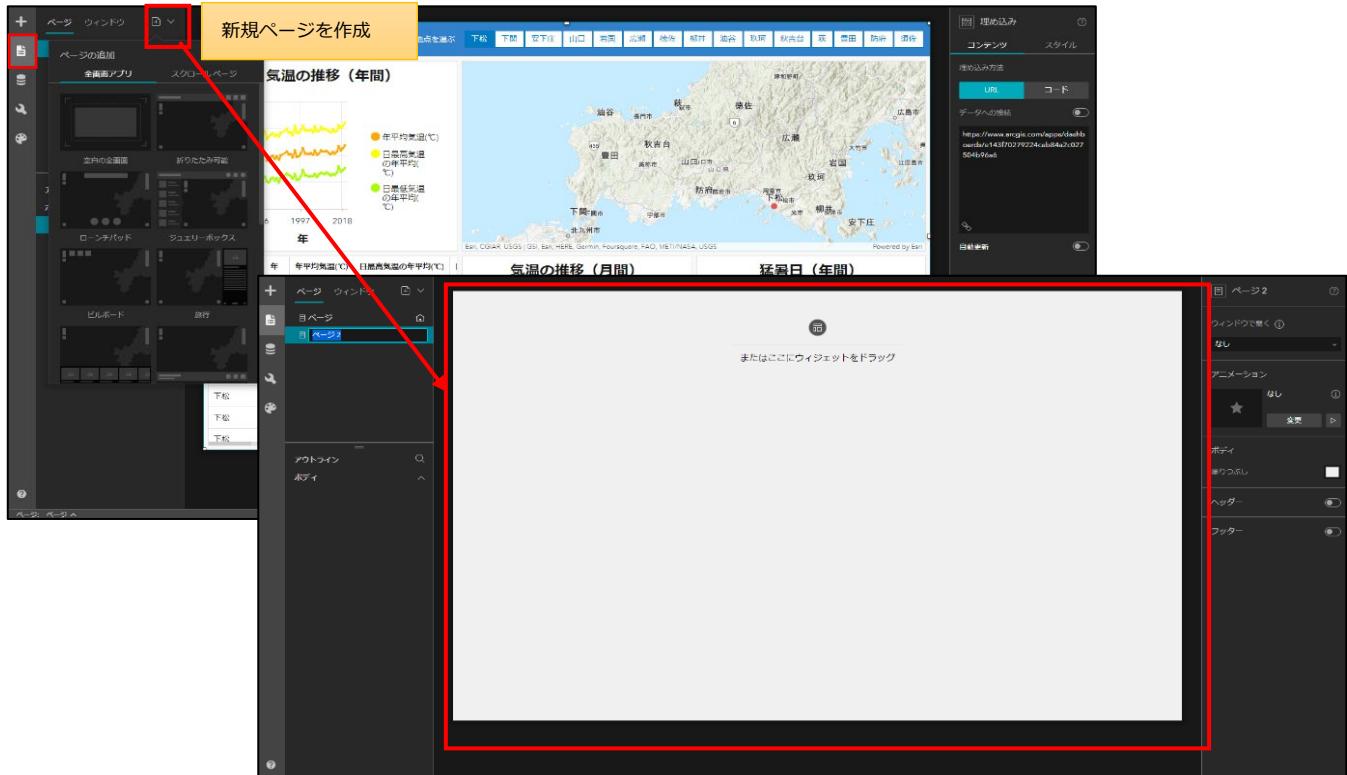
- ② 埋め込みウィジェットに URL を入力する箇所があります。そちらに先ほど作成したダッシュボードをページごとに追加します。URL は Online の組織サイトの [マイコンテンツ] のアイテムページで確認できます。埋め込みたいコンテンツ（ここではダッシュボード）をクリックすると、コンテンツの詳細画面が表示され、一番下までスクロールするとコンテンツの URL が表示されます。こちらから URL をコピーして Experience Builder の埋め込みウィジェットに追加します。



URLの埋め込みエラーがでた場合

ダッシュボード自体を開き、下記のような構造のURLをコピーして埋め込んで下さい。
「<https://<組織サイトのショートネーム名>.maps.arcgis.com/apps/dashboards/<ID>>」

- ③ 気温の推移アプリが挿入できたら、同じように降水量の推移アプリ（気象官署とアメダス）も挿入します。新規のページの作成を行い、埋め込みウィジェットを挿入後、URLを入力します。



- ④ 3つのアプリが挿入できたら、アプリの切り替えメニューを作成します。[ウィジェットの挿入] > [メニューとツールバー] > [メニュー] より、メニュー・ウィジェットを挿入します。メニュー・ウィジェットの設定は以下の通りです。

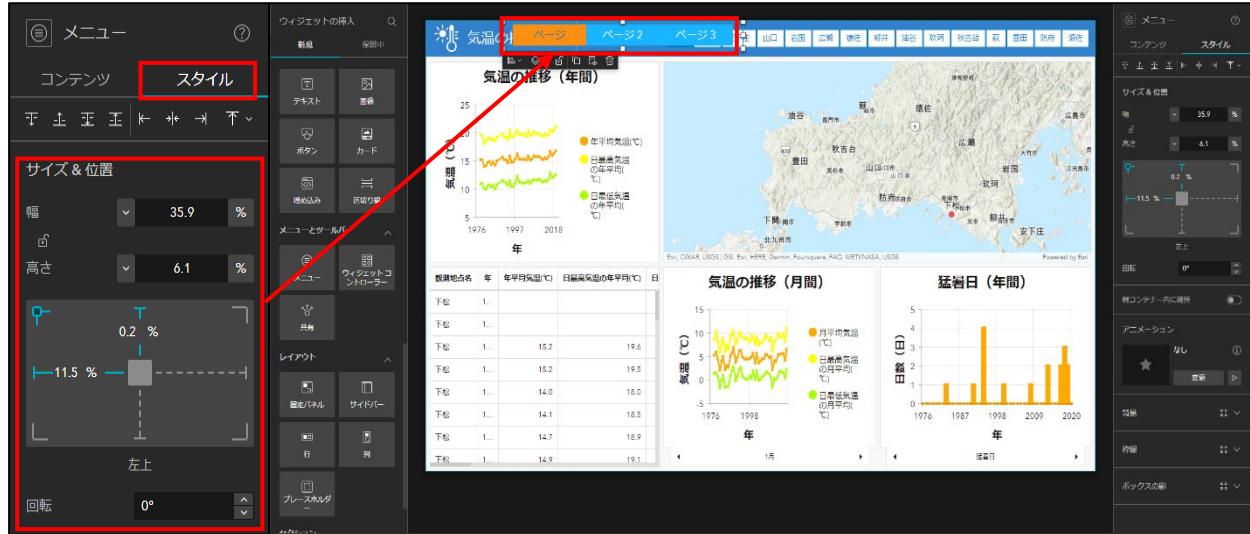
[コンテンツ]

- ・高度な設定・・・アクティブな状態（設定を有効化）に設定

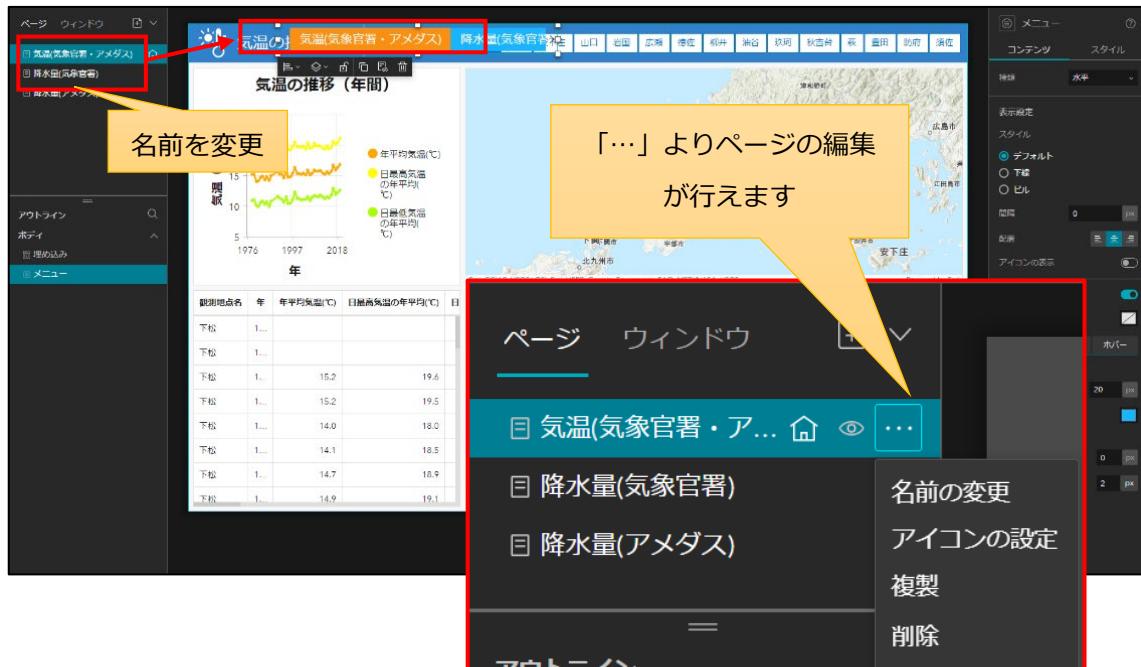
	デフォルト	選択	ホバー
テキストカラー	#ffffff (白: R100、G100、B100)	#ffffff (白: R100、G100、B100)	#fb9012 (オレンジ: R251、G144、B18)
テキストの大きさ	20px	20px	20px
背景カラー	#19b5ff	#fb9012	なし

[スタイル]

- 以下のイメージと同じ数値設定でサイズと位置を設定



⑤ メニューウィジェットを残りの 2 つのアプリにも同様な設定で挿入します。また、ページ名を「気温（気象官署・アメダス）」、「降水量（気象官署）」、「降水量（アメダス）」に変更します。



- ⑥ 以上で完成になります。プレビューで確認し、アプリの完成を確かめることができます。



プレビュー表示とは・・・

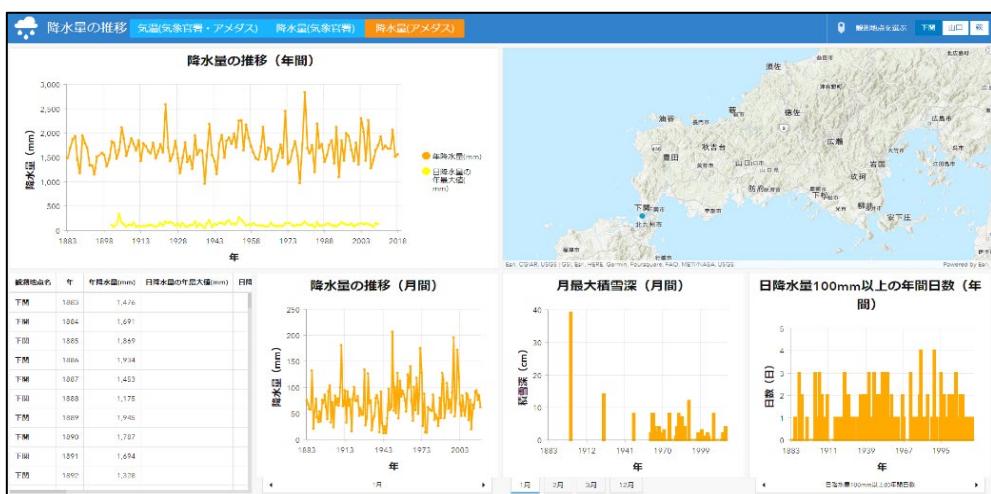
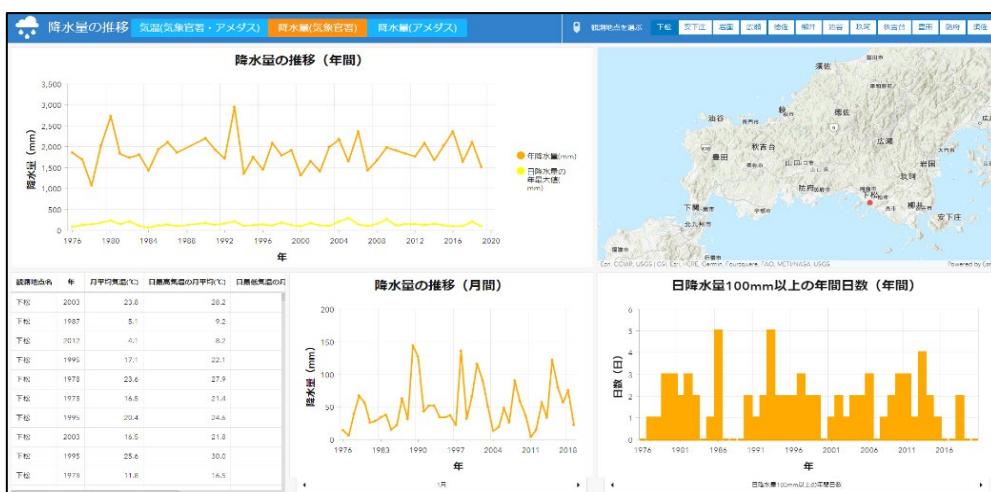
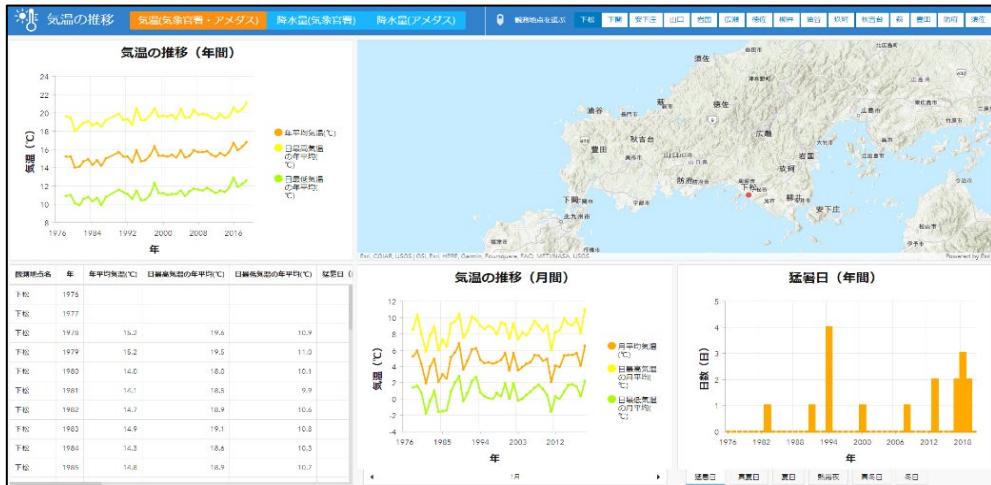
アプリの完成イメージを閲覧することができます。

画面上部の再生ボタン（プレビュー ボタン）をクリックすると、ブラウザ上でアプリを表示させることができます。

次のステップでおこなう「公開」を実施する前にプレビュー表示で確認しておくことで、アプリの編集内容を公開中のアプリに反映してよいかチェックすることができます。

- ⑦ 画面右上の [公開] ボタンをクリックし、アプリの編集内容を確定させます。以上で統合アプリが完成になります。





完成イメージ

本手順書は以下発行時の内容となっており、今後画面に変更が生じることもあります。
必要に応じて本手順書が公開されているWebページ下部にある参考資料をご参照ください。

2022年9月30日 第1版発行（2025年5月アップデートに伴い一部加筆）

© National Institute for Environmental Studies. 2025